

目次

目次	1
1.1 ご使用前の感謝状	3
1.2 当マニュアルの特色	4
1.3 安全上の情報	4
2章 当マザーボードの紹介	5
2.1 マザーボードの外見は？	5
2.2 仕様	6
2.3 構成図	7
3章 ハードウェア・インストール	8
3.1 クイック・インストールの手順	8
3.2 インストールのために知っておくべきこと	9
CPUをインストールする	9
CPUファンをインストールする	10
CPUとシステムファンを接続する	11
メモリーモジュールをインストールする	12
デュアルチャンネルのパフォーマンスを最大にする	13
IDEとフロッピーケーブルを接続する	14
前面パネルケーブルを接続する	15
ATX電源ケーブルを接続する	16
3.3 他のインストール参照情報	17
CPU電圧およびクロックの設定	17
Serial ATAを接続する	18
ハードディスクの設定を調整する	19
AGP 8X拡張スロットに接続する	21
IrDAを接続する	22

10/100/1000Mbps LANをサポート (i865Gm-7L用は1000Mbps).....	23
USB2.0を接続する.....	24
スーパー5.1チャンネルオーディオ効果.....	25
前面オーディオを接続する.....	26
COM2に接続する.....	27
CD_INを接続する.....	28
Case Openを接続する.....	29
S/PDIF(Sony/Philipsデジタルインターフェイス)を接続する.....	30
色分けされた後部パネル (i865Gm-7L/7N).....	31
色分けされた後部パネル (i865PEm-7N/i800Pm-7N).....	32
LED表示.....	33
3.4 ジャンパー設定.....	34
4章 特別な機能とユーティリティー.....	35
他の便利な機能.....	35
05章 BIOSを設定する.....	36
紹介.....	36
Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方.....	37
BIOS設定への入り方.....	37
Windows環境でのBIOSアップグレード.....	38
6章 ドライバーをインストールする.....	40
6.1 ドライバーをインストールする.....	41
6.2 ユーティリティーをインストールする.....	42
7章 トラブルシューティング.....	43
8章 テクニカルサポート.....	44
型式名およびBIOSバージョン.....	45
お買上げのマザーボードの登録.....	45
Technical Support.....	46



1.1 ご使用前の感謝状

まず初めに、AOpen製品をご購入くださり厚くお礼を申し上げます。当マザーボードは皆様のあらゆるニーズに合うよう、私たちの持つ優秀な設計能力を駆使し、品質のために尽力を傾け設計されました。

このマニュアルは当マザーボードのインストールの仕方を紹介しています。今後の参考として保管してください。印刷されたマニュアルをなくされた場合は、最新のファイルをダウンロードするために私共のウェブサイト<http://www.aopen.com>にアクセスしてください。

それでは、このユーザーにとって使い勝手のよいマニュアルとAOpenが提供するパワフルな機能のすべてを個人的に経験なさるようお招きいたします。

AdobeとAcrobatのロゴはAdobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonそしてDuronのロゴはAdvanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, IIIそしてPentium 4のロゴはIntel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴはnVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴはアメリカ及び他の国々におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

当マニュアルで言及されている製品のタイトルや商標は解説上の便宜を目的としており、それぞれの企業によって所有されています。

使用上の標準やそれに関連する情報に関わる変更について提供できないことを遺憾に思います。AOpenは当マニュアルの内容について変更や修正を加える権利を留保しています。商品に関わる点も含むいかなる誤記について、AOpenは保証や義務を負うものではありません。

当文書は会社を保護し全ての権利を留保するための著作権法に基いています。

AOpenからの正式な文書での許可がない限り、どのような状況であれ、本冊子をいかなる種類に複製することも、データベースや媒体に取り込むことも許されていません。

1996-2004 Copyrights, AOpen Ltd. 版權所有。

1.2 当マニュアルの特色

当マザーボードの便利な情報や知っておくべき特定の状況を把握するために、以下のアイコンがしばしば出てきます：



組み立ての過程で知っておくべき知識や役立つヒントを含んでいます。



このマークを見たら注意して下さい。組み立て中によく起きるミスや注意すべき点を強調しています。



このヒントはインストールをスムーズに行うために役に立つ情報を教えてくれます。

1.3 安全上の情報



コンポーネントを扱う前に、リストストラップを着用しユニットの金属部分に触れてください。別の方法としては、アースされた物体に触れるか、その金属面に触れてください。



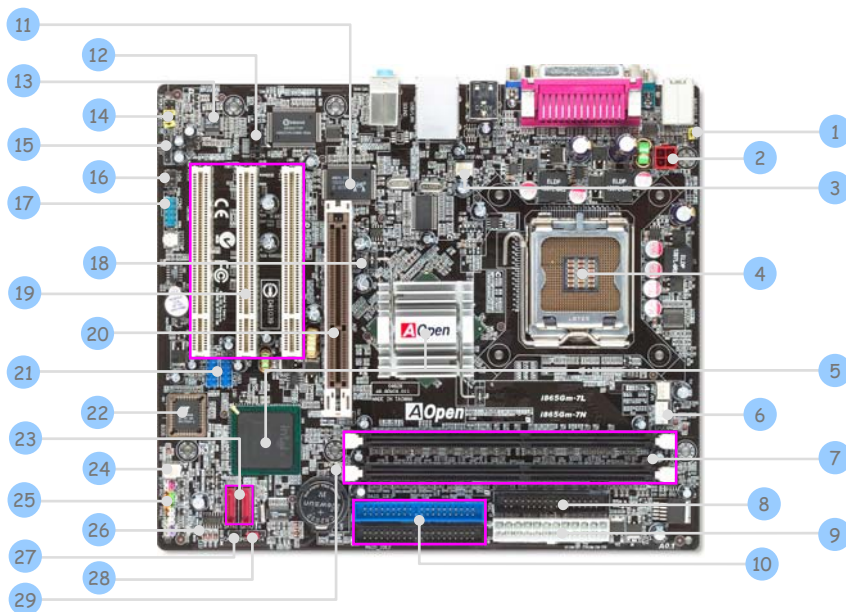
ジャンパー設定の前には常に電源を抜いてください。



マザーボード上のコンポーネントをインストールしたり外したりする前には、最初に電源を外し、マザーボードや他のコンポーネントにダメージを与えないようにして下さい。

2章 当マザーボードの紹介

2.1 マザーボードの外見は？



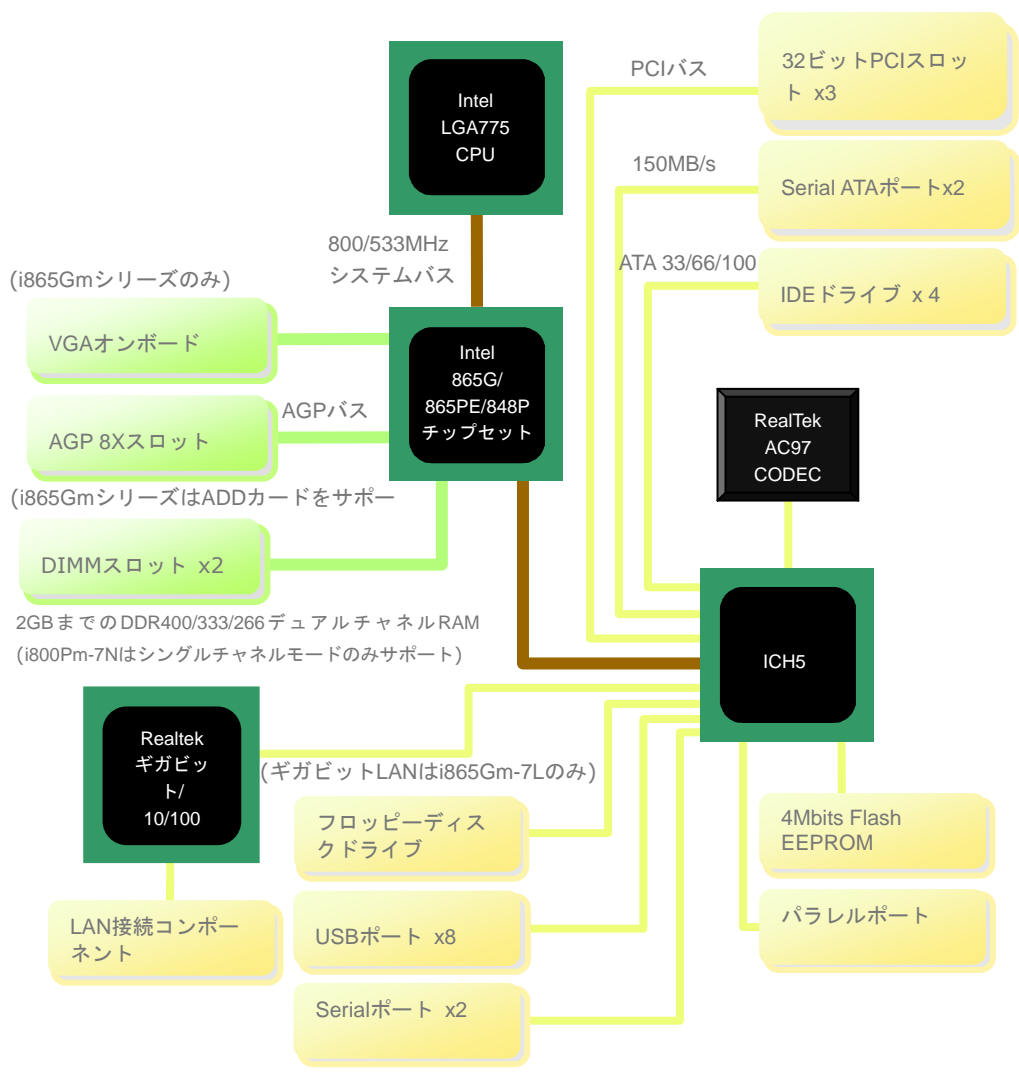
1. JP28 PS2キーボード/マウスウェイクアップジャンパー	16. IrDAコネクタ
2. 4ピン12V ATX電源コネクタ	17. COM2コネクタ
3. SYSFAN1コネクタ	18. AGP保護LED
4. Intel FC-LGA4 CPUをサポートする LGA775 CPUソケット	19. 32ビットPCI拡張スロット X 3
5. Intel 865G/865PE/848P/ICH5チップセット	20. AGP 8Xグラフィックス・スロット
6. CPUFANコネクタ	21. USB 2.0コネクタ X 2
7. 184ピン DIMMs X 2	22. ダイハートBIOS Lite
8. FDDコネクタ	23. Serial ATAポート X 2
9. 24ピンATX電源コネクタ	24. SYSFAN2コネクタ
10. IDEコネクタ x 2	25. 前面パネルコネクタ
11. RealtekギガビットPCI LANチップ(i865Gm-7L用) Realtek 10/100 PCI LAN (7Nシリーズ用)	26. スタンバイLED
12. CD_INコネクタ	27. Case Openコネクタ
13. Realtek AC'97コーデック	28. JP14 CMOSデータクリアジャンパ
14. 前面オーディオコネクタ	29. ブートLED
15. S/PDIFコネクタ	

2.2 仕様

お手持ちのマザーボードの主要な機能です。

型式	I865Gm-7L/7N	I865PEm-7N	I800Pm-7N
CPU	Intel LGA775 CPU ソケットT 800/533MHz	Intel LGA775 CPU ソケットT 800/533MHz	Intel LGA775 CPU ソケットT 800/533MHz
チップセット	Intel 865G Intel ICH5	Intel 865PE Intel ICH5	Intel 848P Intel ICH5
メインメモリー	デュアルチャネルモードDDR 400/333/266MHz DDR DIMM x 2 DIMMタイプ： 128/256/512MB & 1GB 最大メモリー：2GB	デュアルチャネルモードDDR 400/333/266MHz DDR DIMM x 2 DIMMタイプ： 128/256/512MB & 1GB 最大メモリー：2GB	シングルチャネルモードDDR 400/333/266MHz DDR DIMM x 2 DIMMタイプ： 128/256/512MB & 1GB 最大メモリー：2GB
グラフィックス	チップセットに一体型のVGA エンジン AGP 8Xスロット ADDカードをサポート	AGP 8Xスロット	AGP 8Xスロット
IDE & SATA	一体型ATA100と Serial ATAコントローラー 最大ディスク： 144,000,000GB [48ビットLBA仕様による]	一体型ATA100と Serial ATAコントローラー 最大ディスク： 144,000,000GB [48ビットLBA仕様による]	一体型ATA100と Serial ATAコントローラー 最大ディスク： 144,000,000GB [48ビットLBA仕様による]
LAN	RealtekギガビットPCI LANコントローラー (7L) 10/100 PCI LAN (7N)	Realtek 10/100Mbps PCI LANチップ	Realtek 10/100Mbps PCI LANチップ
サウンド	Realtek AC'97コーデック オンボード、ドルビー デジタルシステムと 5.1チャンネルをサポート	Realtek AC'97コーデック オンボード、ドルビー デジタルシステムと 5.1チャンネルをサポート	Realtek AC'97コーデック オンボード、ドルビー デジタルシステムと 5.1チャンネルをサポート
USB	チップセットと一体型 USB2.0 x 8	チップセットと一体型 USB2.0 x 8	チップセットと一体型 USB2.0 x 8
スロット	AGP x 1 PCI x 3	AGP x 1 PCI x 3	AGP x 1 PCI x 3
後部パネルI/O	PS/2キーボード x 1 PS/2マウス x 1 USBポート x 4 LANポート x 1 VGAポート x 1 COMポート x 1 プリンターポート x 1 スピーカー出力 x 1 ライン入力 x 1 マイク入力 x 1	PS/2キーボード x 1 PS/2マウス x 1 USBポート x 4 LANポート x 1 COMポート x 1 プリンターポート x 1 スピーカー出力 x 1 ライン入力 x 1 マイク入力 x 1	PS/2キーボード x 1 PS/2マウス x 1 USBポート x 4 LANポート x 1 COMポート x 1 プリンターポート x 1 スピーカー出力 x 1 ライン入力 x 1 マイク入力 x 1
オンボードコネクター	前面パネル x 1 / 前面オーディオ x 1 / CPUファン x 1 / システムファン x 1 / ケースファン x 1 電源ファン x 1 / 電源温度コネクター x 1 / Case Openコネクター x 1 CD_IN x 1 / IrDA x 1 / COM2 x 1 / USBポート x 4		
BIOS	Award PnP 4Mb Flash ROM BIOS	Award PnP 4Mb Flash ROM BIOS	Award PnP 4Mb Flash ROM BIOS
ボードサイズ	244 mm x 210 mm	244 mm x 210 mm	244 mm x 210 mm

2.3 構成図



3章 ハードウェア・インストール

3.1 クイック・インストールの手順



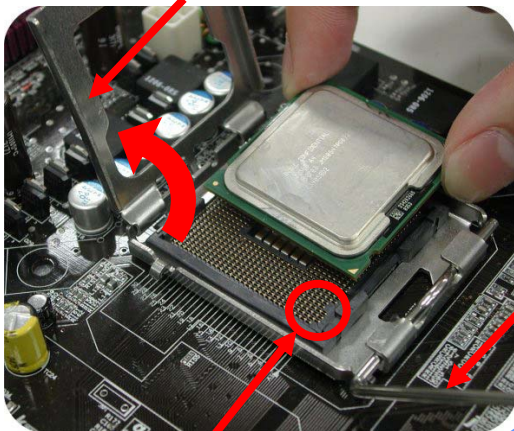
3.2 インストールのために知っておくべきこと

CPUをインストールする

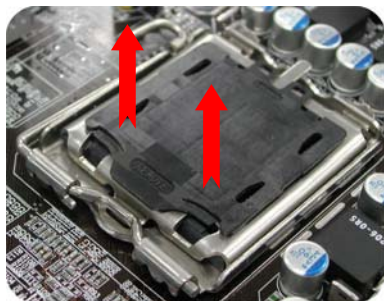
このソケットはIntelが開発した最新のCPUパッケージであるFC-LGA4 CPUをサポートしています。他の形状のCPUパッケージは納まりません。CPUソケットレバーを引き上げプレートを持ち上げてください。

1. CPUソケットプレートからプラスチックキャップを外す。
2. ソケットの1番ピンを確かめ、CPU上部にある金色の矢印を探す。1番ピンと金色の矢印を合わせる。次にCPUをソケットに差し込む。
3. CPUソケットプレートとレバーを押し込み、CPUのインストールは完了。

CPUソケットプレート



ソケット1番ピン



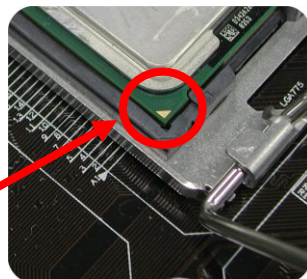
CPUソケット
レバー



警告： CPUソケットの1番ピンとCPUの金色の矢印が合わない場合はCPUが破損するかもしれません。CPUをインストールしている時に、CPUソケットピンに触れないで下さい。



メモ： Prescott CPUから発生する過熱を回避するために、適切にサーマルペーストを使用するようにIntelは強く勧めています。



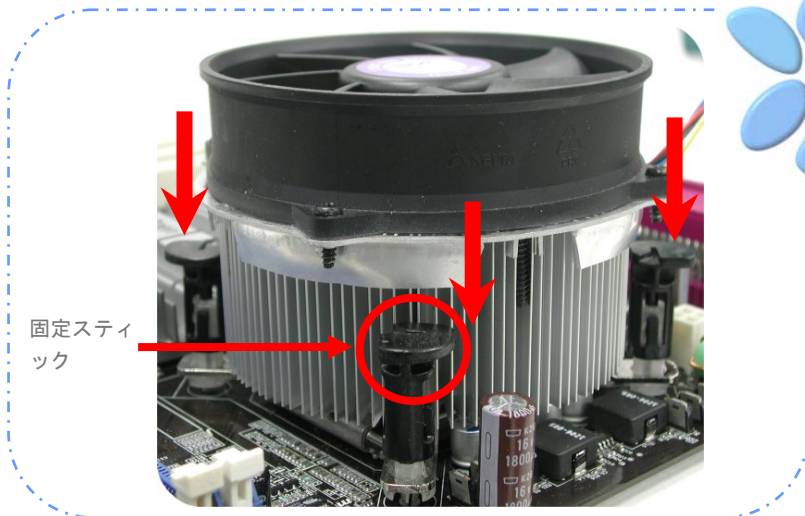
金色の
矢印

CPUファンをインストールする

1. CPUソケット上の4つの取り付け穴に、正確に4本のスティックでCPUファンを優しく押し込んでください。



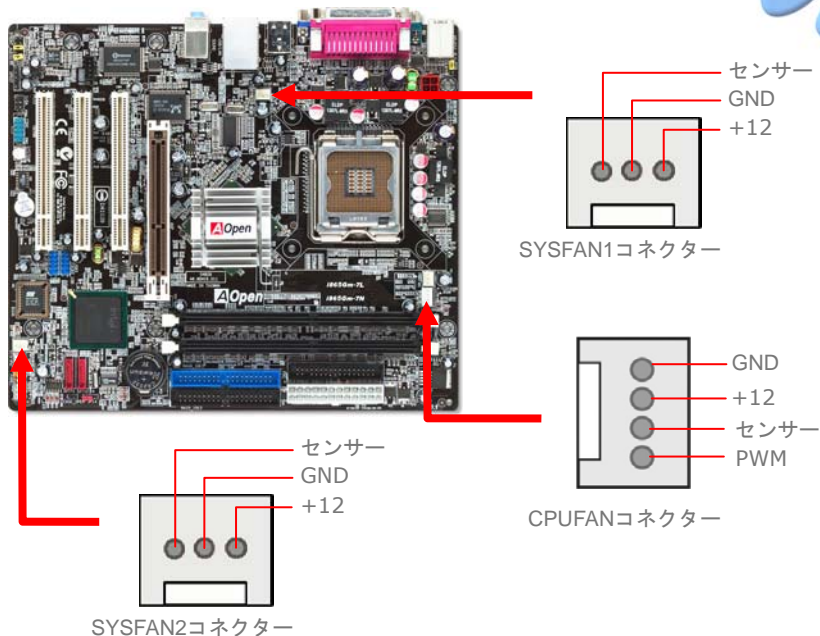
2. 一つずつ穴に4つの固定スティックを押し込んでください。スティックが穴にしっかりと固定されていることを確認してください。



メモ：上の写真のものは購入されたものと形状が異なるかもしれません。

CPUとシステムファンを接続する

CPUファンケーブルを4ピンCPUFANコネクタに接続します。もしケースにファンがあれば、SYSFAN1かSYSFAN2コネクタに接続できます。



メモ：CPUファンの中にはセンサーがないものがあるので、その場合にはファンのモニターをサポートできません。

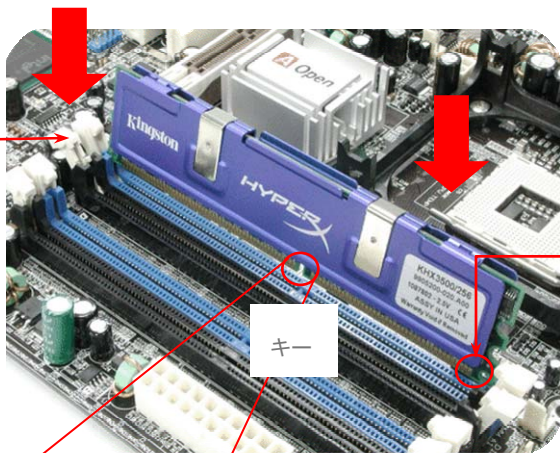


メモリーモジュールをインストールする

モジュールを両手でまっすぐにDIMMスロットに挿入し、DIMMモジュールがしっかりと固定されるまで押し込んでください。

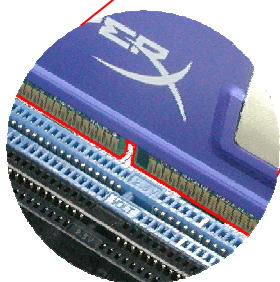



タブ



1番ピン

キー



 **メモ:** DIMMスロットのタブはDIMMがスロットの底部に接触したときに、DIMMを固定するために持ち上がります。

デュアルチャンネルのパフォーマンスを最大にする

デュアルチャンネルのパフォーマンスを最大にするには、DIMMの規格値が下記の条件を満たしている必要があります。

各チャンネルのDIMM規格値の一致

- 同一のデンシティ (128MB~1GB)
- 同一のDRAMバス幅 (x8 or x16)
- 片面または両面のいずれか



メモ：異なるチップおよびデンシティのメモリモジュールの使用により、システムが不安定になる場合があります。


デュアルチャンネルモードが上手く有効になると、POST画面の間に、“Dual Channel Mode Enabled”が画面に表示されます。

```
Phoenix - AwardBIOS v6.00PG, An Energy Star Ally
Copyright (C) 2003, Phoenix Technologies, LTD

Feb.02.2004 AOpen Inc.

Main Processor : Intel Pentium(R) 4 2.80GHz(200x14.0)
Memory Testing : 1048576K OK
CPU Brand Name : Intel(R) Pentium(R) 4 CPU 2.80GHz

Hyper-Threading Technology Enabled
Dual Channel Mode Enabled
CPU 200MHz / 200MHz Default / Setting
DRAM 400MHz / 400MHz 1.525V / 1.525V
AGP 66.67MHz / 66.67MHz AUTO / AUTO
PCI 33.33MHz / 33.33MHz 1.50 V / 1.50 V
3.30 V / 3.30 V
IDE Channel 0 Master : WDC WD300AB-00CDB0 22.04A22
IDE Channel 0 Slave : None
IDE Channel 1 Master : None
IDE Channel 1 Slave : None
```

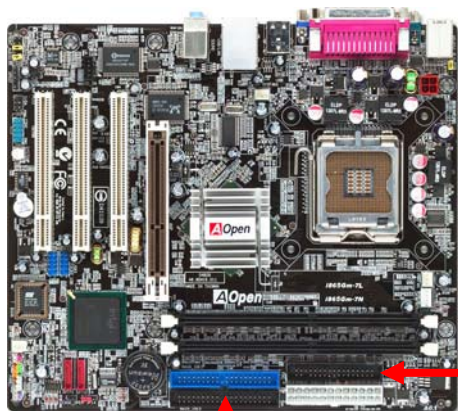


AOpen <http://www.aopen.com.tw>

Press DEL to enter SETUP
02/02/2004-Springdale-G-6A79AAB9C-00

IDEとフロッピーケーブルを接続する

34ピンのフロッピーケーブルと40ピンか80ワイヤーIDEケーブルをフロッピーコネクタとIDEコネクタに接続します。1番ピンの向きに注意してください。向きを間違えるとシステム損傷の原因になります。



プライマリ
マスター (1) プライマリ
スレーブ (2)

IDE 1 (プライマリ)



1番ピン

IDE 2 (セカンダリー)

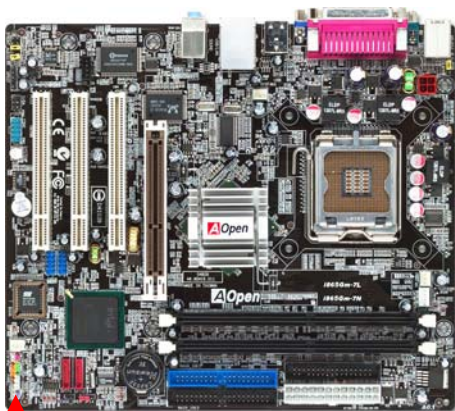
セカンダリー
マスター (3) セカンダリー
スレーブ (4)

ATA 66/100 IDEコネクタ

前面パネルケーブルを接続する

電源LED、スピーカー、リセットスイッチコネクタを対応するピンに取り付けます。BIOS設定の“サスペンドモード”の項目を有効にすると、システムが“サスペンドモード”になっている間、ACPI & Power LEDが点滅します。

ATXケースの電源スイッチケーブルを確認してください。ケースの前面パネルの2ピンのメスのコネクタです。このコネクタをSPWRと記されたソフトパワースイッチコネクタに接続します。



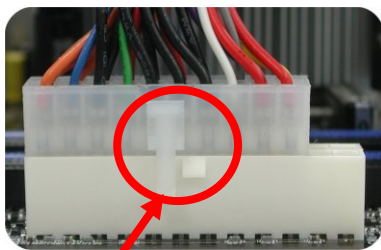
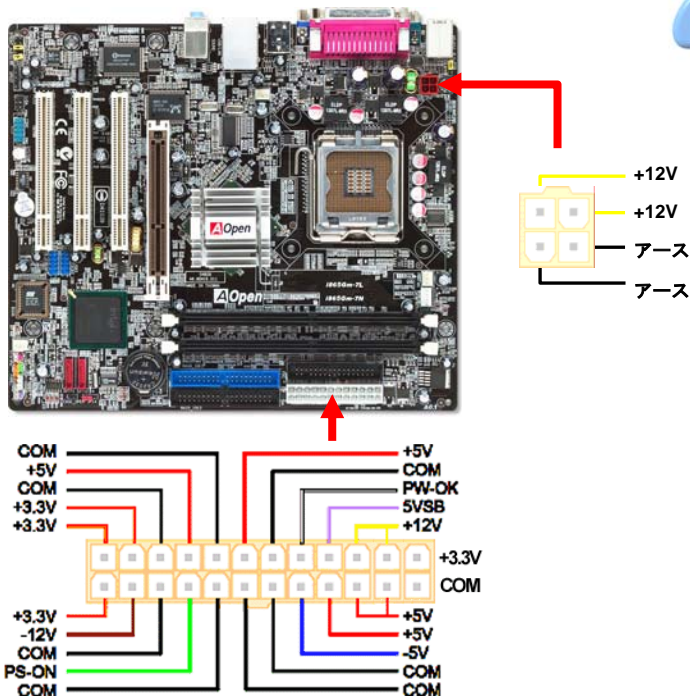
NC		電源スイッチ
NC		GND
+5		電源LED-
HDD LED		GND
HDD LED		電源LED+
+5		NC
+5		GND
GND		GND
NC		リセット
スピーカー		GND

前面パネルコネクタ



ATX電源ケーブルを接続する

当マザーボードには下に示されているように、24ピンのATX電源コネクタと4ピンの12V ATX電源コネクタがあります。正しい向きで差し込んでください。24ピンコネクタを差し込む前に4ピンコネクタを差し込んでおかれることを強くお勧めします。



ミス防止ラッチ

メモ： ケースが20ピンATX電源ケーブルのみをサポートしている場合は、ミス防止ラッチを、左の写真で示されているように20ピンATX電源ケーブルの左端から24ピンATX電源コネクタに接続してください。

3.3 他のインストール参照情報

CPU電圧およびクロックの設定

CPUコア電圧の設定

当マザーボードは電圧ID (VID)機能で電源オン時にCPU電圧の自動検出が0.8375V~ 1.6Vの範囲で可能です。それでCPUコア電圧の設定は不要です。

CPUクロックの設定

当マザーボードはCPUジャンパレス設計で、CPUクロック設定はBIOSの1MHzずつのCPUオーバークロック機能から行います。**CPUコアクロック = CPU FSBクロックx CPU レシオ**。ただし、現在市場に流通するCPUは“倍率固定”、すなわちユーザーによるCPUレシオは調節不可能で、オーバークロックにはCPU FSBクロックのみが調節可能です。


BIOS設定 > クロック / 電圧制御 > CPUスピード設定

(オーバークロックは自己責任の元行って頂きますようお願い致します。)

CPUレシオ	8x, 10x... 24x, 25x, 26x, 27x, 28x
CPU FSB (マニュアル調整)	FSB = 100MHz-400MHz、1MHzずつのCPUオーバークロックによる

プロセッサ番号	プロセッサクロック	FSB	CPUレシオ	キャッシュ
5シリーズ				
580	4.00G	800MHZ	20x	1MB L2
570	3.80G	800MHZ	19x	1MB L2
560	3.60G	800MHZ	18x	1MB L2
550	3.40G	800MHZ	17x	1MB L2
540	3.20G	800MHZ	16x	1MB L2
530	3.00G	800MHZ	15x	1MB L2
520	2.80G	800MHZ	14x	1MB L2
3シリーズ				
350	3.20G	533MHZ	24x	256K L2
345	3.06G	533MHZ	23x	256K L2
340	2.93G	533MHZ	22x	256K L2
335	2.80G	533MHZ	21x	256K L2

メモ： CPUのスピードは急速に変化するため、このインストール・ガイドを手にする時点でより高速のCPUがあるかもしれません。この表は参照のためのものです。

 **メモ：CPU**
ファンの中にはセンサーがないものがあるので、その場合にはファンのモニターをサポートできません。



警告： Intel 865G/865PE/848Pチップセットは最大800MHz (200MHz*4)システムをサポートしています。クロック設定を高くすると深刻なシステム損傷を起こすかもしれません。

Serial ATAを接続する

Serial ATAディスクを接続するために、7ピンのSerial ATAケーブルが必要です。Serial ATAケーブルの両端をマザーボード上のSerial ATAヘッダーとディスクに接続します。他の従来のディスクのように、電源ケーブルも接続します。ジャンパーレスであることに注意してください。マスターがスレーブディスクを定義するためにジャンパーを設定する必要はありません。Serial ATAハードディスクをSerial ATAポートにインストールするときは、自動的にポート0(SATA1)に接続する方が最初に起動するブートデバイスになります。ホットプラグ機能をサポートしていないことに注意してください。



SATA1 SATA2



ハードディスクの設定を調整する

オリジナルの2セットの平行IDEを除いて、当マザーボードは最新のSerial ATAハードディスクをサポートしています。インストールをした後で、最新のインストールしたばかりのSerial ATAハードディスクがOS上に見つからないなら、BIOS設定に問題があるかもしれません。正しく機能するようにBIOS設定を調整できます。

ハードディスクを正しくインストールした後で、調整用のBIOS設定画面に進んでください。好みのモードを選択するために“Integrated Peripherals → OnChip IDE Device → On-Chip Serial ATA”の順に押してください。オリジナル設定の変更を希望されないのであれば、デフォルトは自動になっています。

The image shows three overlapping screenshots of the Phoenix AwardBIOS CMOS Setup Utility. The top screenshot shows the main menu with 'Integrated Peripherals' highlighted. The middle screenshot shows the 'Integrated Peripherals' sub-menu with 'OnChip IDE Device' highlighted. The bottom screenshot shows the 'OnChip IDE Device' sub-menu with 'On-Chip Serial ATA' highlighted, and the 'SATA Mode' set to 'IDE'.

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility

- ▶ Standard CMOS Features
- ▶ Advanced BIOS Features
- ▶ Advanced Chipset Features
- ▶ **Integrated Peripherals**
- ▶ Power ...
- ▶ PnP/PS
- ▶ Siliem
- ▶ Frequ

Load Setup Defaults
Load Turbo Defaults
Set Password
Save & Exit Setup

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Integrated Peripherals

Item	Value	Item Help
▶ OnChip IDE Device	Press Enter	
▶ Onboard Device	Press Enter	
▶ SuperIO Device	Press Enter	

Esc : Quit
F10 : Save

↑↓←→:Move F2:Item Help

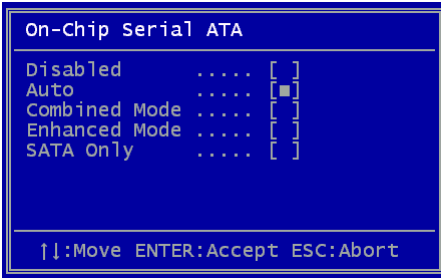
Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
OnChip IDE Device

Item	Value	Item Help
IDE HDD Block Mode	Enabled	
On-Chip Primary PCI IDE	Enabled	
IDE Primary Master PIO	Auto	
IDE Primary Slave PIO	Auto	
IDE Primary Master UDMA	Auto	
IDE Primary Slave UDMA	Auto	
On-Chip Secondary PCI IDE	Enabled	
IDE Secondary Master PIO	Auto	
IDE Secondary Slave PIO	Auto	
IDE Secondary Master UDMA	Auto	
IDE Secondary Slave UDMA	Auto	
*** On-Chip Serial ATA Setting ***		
x SATA Mode	IDE	
x On-Chip Serial ATA	Auto	
x Serial ATA Port0 Mode	SATA0 master	
Serial ATA Port1 Mode	SATA1 master	

Menu Level ▶▶

[Disabled]: Disabled SATA Controller.
[Auto]: Auto arrange by BIOS.
[Combined Mode]: PATA and SATA are combined. Max. of 2 IDE drives in each channel.
[Enhanced Mode]: Enable both SATA and PATA. Max. of 6 IDE drives are supported.
[SATA Only]: SATA is operating in legacy mode.

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults



デフォルト設定から変更する場合は、Enterを押すと選択リストが表示されます。

Disabled: ご使用のシステムにインストールされているのが従来のIDEハードディスクのみである場合に選択できます。この項目を無効にすると、POST中のSerial ATAハードディスク検出を行いませんから理論上の起動時間は多少短縮されます。ただし、後ほどSerial ATAハードディスクをインストールした場合には設定

を変更するのをお忘れなく。

Auto: これがマザーボードの工場デフォルト設定値です。ご使用のシステムが正常に動作している場合は、基本的には変更は不要です。システムはIDE1の第1ディスクを起動デバイスとして認識します。

メモ: Windows98Se/MEをご使用で、インストール可能数限界の6台のハードディスクが装着されている場合、Autoモードは正しく作動しません。これはWindows98Se/Me環境では拡張モードをアクティブにして全てのハードディスク検出が行えないことによります。

Combined Mode: 従来のIDEハードディスクとSerial ATAハードディスクを同時にインストールしている場合は、このモードを選択できます。このモードでは、任意のIDEハードディスクまたはSerial ATAハードディスクを起動デバイスに設定できます。ただしここで注意すべきなのは、Serial ATAはIDEとマッピング関係にある点、すなわちこれが1つのIDEチャンネルを占め、残るのはIDEの1チャンネルとなることです。

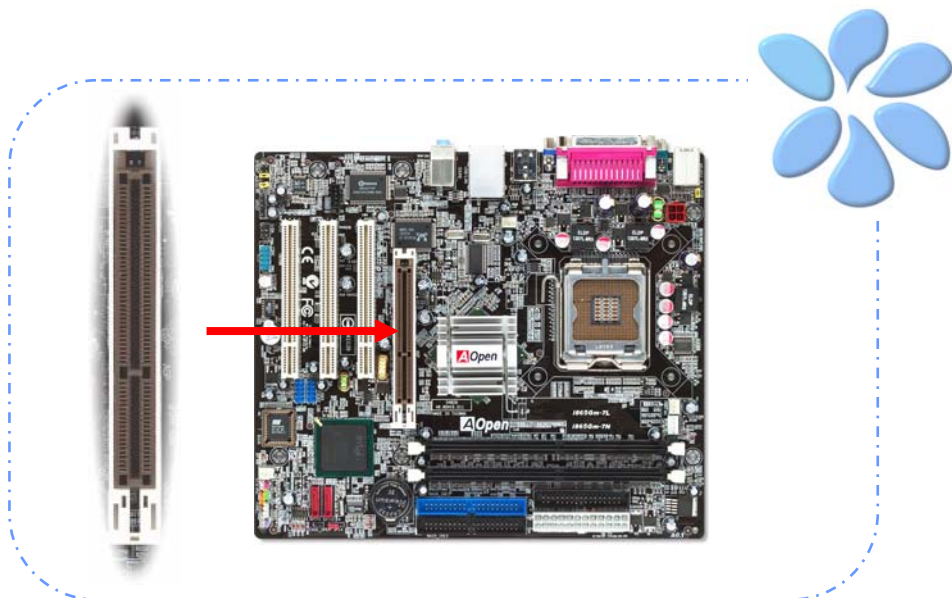
Enhanced Mode: 最新のOS (例: Windows XP, Windows.NET Server)をお使いの場合は、Enhanced Modeを選択されるよう強くお勧めします。このモードではシステムは6つのデバイス全て (従来型IDE x 4, Serial ATA x 2) を認識し、正しく機能します。しかし、このモードでは、従来のIDEが最初にブートするように設定されます。

メモ: ラボでの実用実験によれば、Windows2000のOSの元でこのモードが設定されているときには、目立った問題やミスはありませんが、Intelは推奨していません。

SATA Only: Serial ATAハードディスクをインストールする場合にのみ、このモードを選択できます。このモードはPort0 (SerialATA1)やPort1 (SerialATA2)から順番に起動するように設定することもできます。

AGP 8X拡張スロットに接続する

当マザーボード上には最新のAGP規格であるAGP 8Xスロット1個が搭載され、スカイブルーに色分けされています。AGP 8Xは高性能3Dグラフィックス用に設計されたバスインターフェースです。AGPは66MHzクロックの立ち上がりと下降部の双方を利用し、4X AGPの場合、転送速度は66MHz x 4バイト x 4 = 1056MB/sです。AGPは現在AGP 8xモードに移行中で転送速度は66MHz x 4バイト x 8 = 2.1GB/sです。i865GM-7Lでは、AGPスロットはAGPまたはマルチプレクストIntel DVO出力を装着されたカードの種類でAGPまたはADD (AGP Digital Display)カードといった風に自動検出します。このスロットにADDカードを装着すると、マルチプレクストIntel DVO出力によりデジタル表示やTV出力機能における高速デジタル接続が実現されます。



警告 : SATA装置を接続している場合はAGP/PCIの電圧・クロックの調節は行わないでください。これは、AGP/PCIの電圧・クロックの調節により、SATAが100MHzを保持できず、システムが不安定になるためです。

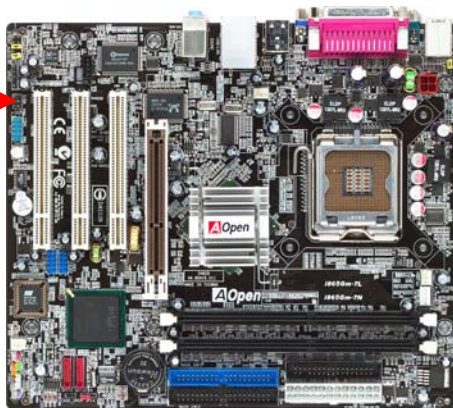


警告 : 3.3V AGPカードは、当マザーボードのIntel 865PE / 865G / 800Pチップセットではご使用いただけません。

IrDAを接続する

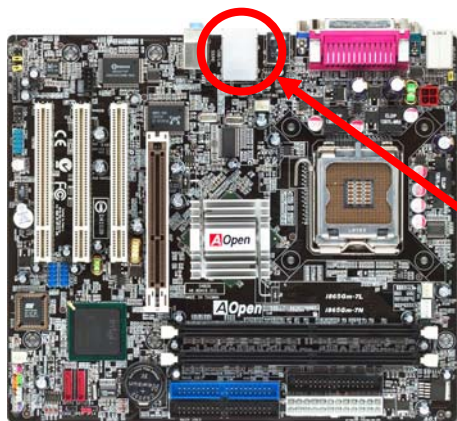
IrDAコネクタはワイヤレス赤外線モジュールをサポートするように設定できます。このモジュールとLaplink、Windows Direct Cable Connectionのようなアプリケーションを使って、ユーザーはファイルをラップトップ、ノートパソコン、PDA装置やプリンターに転送できます。このコネクタはHPSIR (115.2Kbps, 2 meters)とASK-IR (56Kbps)の両方をサポートしています。

赤外線モジュールをIrDAコネクタにインストールし、BIOS設定のUARTモードから赤外線機能を有効にすると、この機能を使用できます。IrDAモジュールを差し込むときは、正しい向きに差し込んでいることを確認して下さい。



10/100/1000Mbps LANをサポート(i865Gm-7L用は1000Mbps)

ボード上のBroadcomギガビットLANコントローラーの強度については、i865Gm-7Lマザーボードはオフィスと家庭の用途のため1000Mbps Ethernetを提供しています。Ethernet RJ45コネクターはUSBコネクターのトップに位置しています。右側のLEDはリンクモードを示していて、ネットワークとリンクされていると黄色に点灯します。左側のLEDは転送モードを示していて、データが100Mbps（10Mbpsだと点灯しない）で転送されていると緑に点灯します。しかしギガビットモードで転送されているとオレンジに点灯します。この機能をオン・オフにするにはBIOSを通して調整してください。LANの起動機能をオンにするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションで“Wake on PCI Card”をオンにセットしなければなりません。



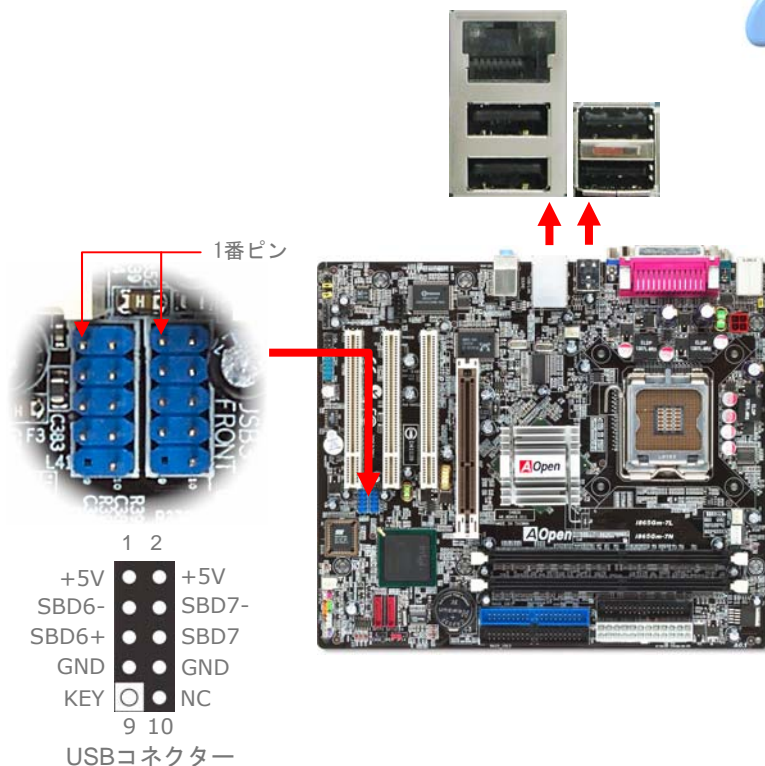
転送（左）
緑色 100Mbps
オレンジ色 ギガビットモード



点滅（右）
黄色

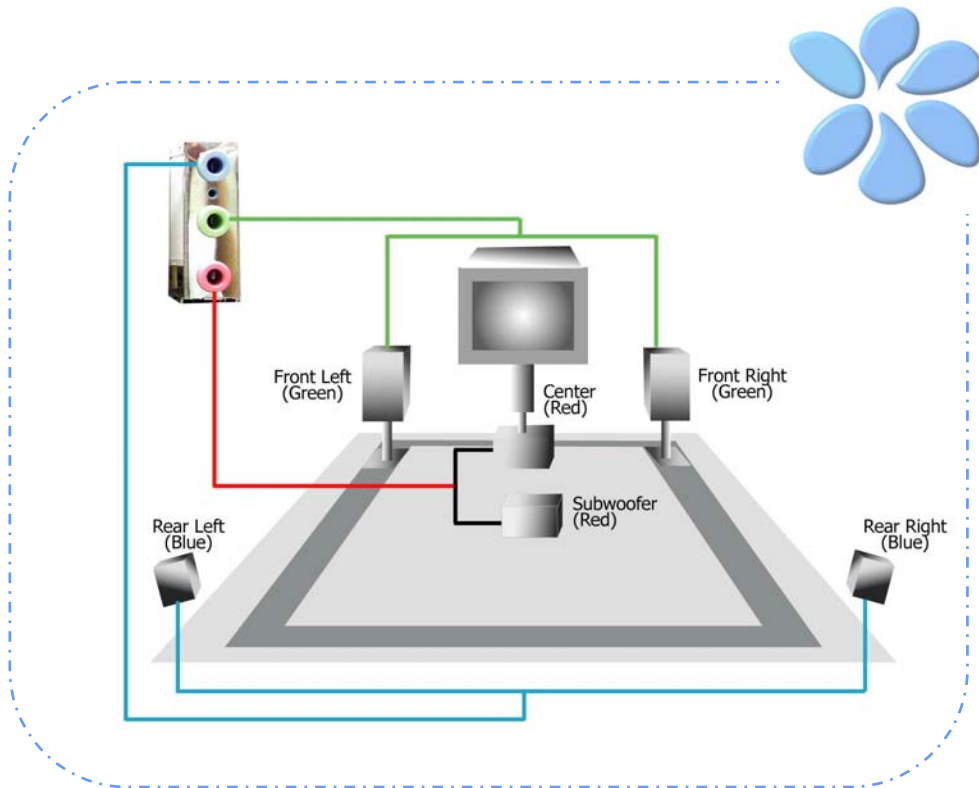
USB2.0を接続する

当マザーボードはマウス、キーボード、モデム、プリンターなどのUSB装置に接続できる
よう8つのUSB 2.0ポートを備えています。後部パネルにはポートが4つあります。前面USB
コネクタをUSBモジュールやケースの前面パネルに接続するために適切なケーブルを使
えます。



スーパー5.1チャンネルオーディオ効果

当マザーボードにはRealtek AC'97 CODEC (ALC655)が付いており、音響効果において高品質な最新の5.1チャンネルをサポートしています。これによって全く新しいオーディオ体験ができるでしょう。ALC655の革新的な設計の強みは、外部モジュールに接続しなくてもサラウンドオーディオの標準的なラインジャックを使用できることです。この機能を使用するにはボーナスパックCDのオーディオドライバーと5.1チャンネルをサポートするオーディオソフトをインストールしてください。以下は、5.1チャンネルサウンドトラックの全てのスピーカーの標準的な位置を示しています。前面スピーカーのプラグを緑の“スピーカー出力”ポートに、後部スピーカーのプラグを青色の“ライン入力”のポートに、中央とサブウーハースピーカーの両方を赤色の“マイク入力”ポートに接続してください。



前面オーディオを接続する

もしケースの前面パネルにオーディオポートが付いている場合は、このコネクタを通してオンボードオーディオを前面パネルに接続できます。ケーブルに接続する前に、前面オーディオコネクタからジャンパーキャップを外してください。もしケースの前面パネルにオーディオポートがない場合は、黄色のジャンパーキャップを外さないで下さい。



1番ピン



AUD_MIC	●	AUD_GND
AUD_MIC_BIAS	●	AUD_VCC
AUD_FPOUT_R	●	AUD_RET_R
NC	○	KEY
AUD_FPOUT_L	●	AUD_RET_L

前面オーディオコネクタ

COM2に接続する

i865Ga-7IF/ILはシリアルポートを2つ提供しています。一つは後部パネルにあり、もう一つはボードの左にあります。適切なケーブルを使ってケースの後部パネルと接続できます。



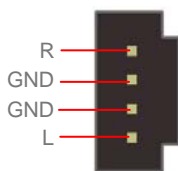
	1	2	
DOD#	●	●	Sin
SOUT	●	●	DTR#
GND	●	●	CTS#
R1#	●	●	DSR#
RTS#	●	○	

COMコネクター



CD_INを接続する

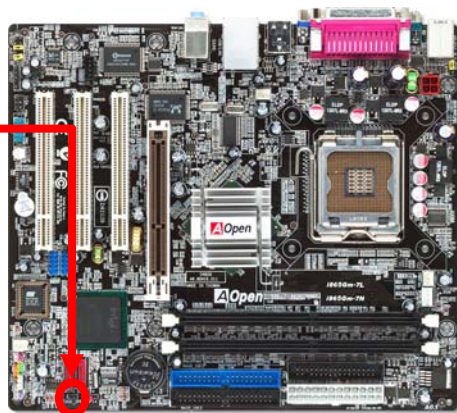
このコネクタはオンボードサウンドのために、CDROMやDVDドライブからCDオーディオケーブルに接続するよう設計されています。



CD-INコネクタ

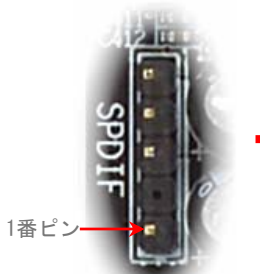
Case Openを接続する

“CASE OPEN”ヘッダーはケースへの侵入監視機能を提供しています。この機能を実行させるには、システムBIOSの中でそれを有効にし、このヘッダーをケースの中のセンサーに接続しなければなりません。センサーが光や、ケースが開けられて誘発させられると、システムはビープ音で知らせます。この便利な機能は先進のケースのみに適用できることをお知らせします。余分なセンサーを購入し、ケースに接続し、この機能を十分にお使いください。



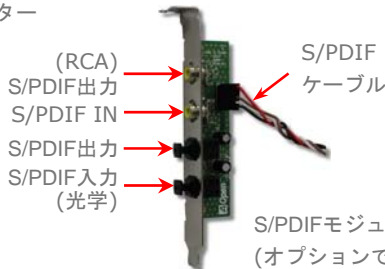
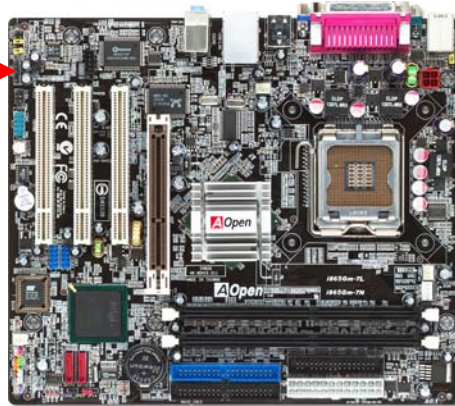
S/PDIF(Sony/Philipsデジタルインターフェイス)を接続する

S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)は最新のオーディオ転送ファイルフォーマットです。これは光ケーブルを通して優れたオーディオ品質を提供し、アナログオーディオの代わりにデジタルオーディオを楽しんで頂くことを可能にしています。特定のオーディオケーブルを通して、S/PDIFコネクタをS/PDIFオーディオモジュールの他方の端に接続できます。これがS/PDIFデジタル出力を担います。通常は以下に示されるように2つのS/PDIF出力があり、一つはRCAコネクタ用、つまり消費されるオーディオ製品に使用される最も一般的なもの、そして他方はより良いオーディオ品質のための光学コネクタ用です。出力のように、RCAあるいは光学オーディオ製品をモジュールのコネクタにインプットしたり、コンピューターから出る音声や音楽をとるために接続することもできます。しかし、この機能を最大限に活用するために、S/PDIFデジタル入力/出力に接続できるように、S/PDIFデジタル入力/出力を備えた、S/PDIFをサポートするスピーカー/アンプ/デコーダーが必要です。



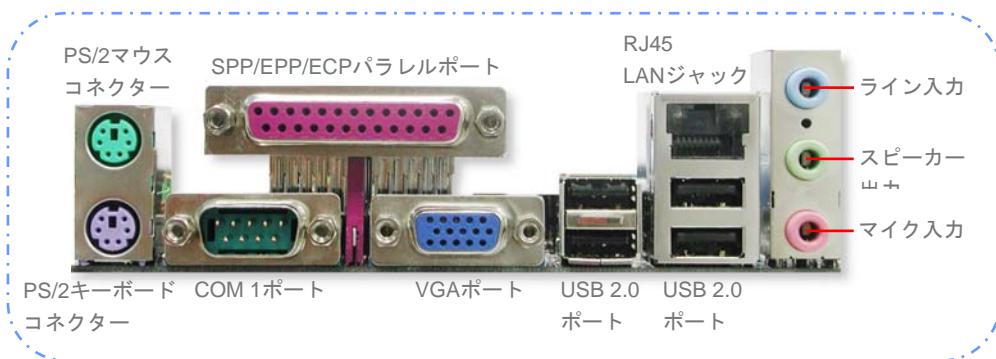
- 5 ● SPDIF IN
- GND
- SPDIF OUT
- KEY
- +5V
- 1 ●

S/PDIFコネクター



色分けされた後部パネル (i865Gm-7L/7N)

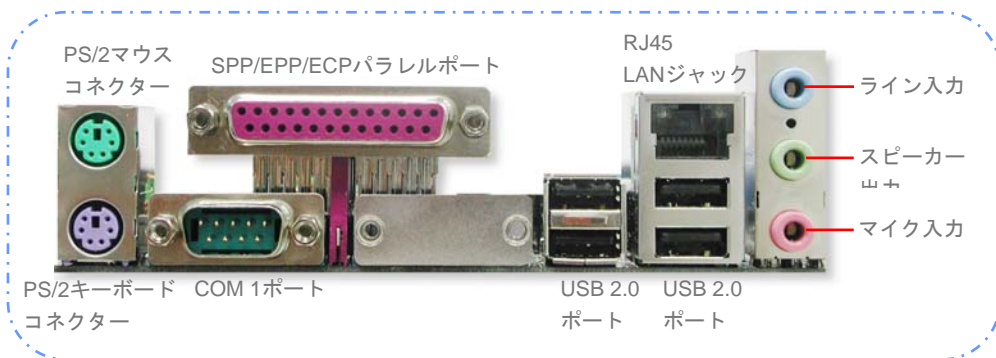
オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、プリンター、USB、AC'97サウンドポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



- PS/2キーボード:** PS/2プラグを使用する標準的なキーボード
- PS/2マウス:** PS/2プラグを使用するPCマウス
- パラレルポート:** SPP/ECP/EPPプリンターと接続
- COM1ポート:** ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと接続
- VGAコネクタ:** PCモニターと接続
- RJ-45 LANポート:** 家庭用、事務所用Ethernetと接続
- USBポート:** USBデバイスとの接続用
- スピーカー出力:** 外部スピーカー、イヤホン、アンプ用
- ライン入力:** CDやテープなどのシグナルソースから
- マイク入力:** マイク用

色分けされた後部パネル (i865PEm-7N/i800Pm-7N)

オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、プリンター、USB、AC'97サウンドポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



PS/2キーボード: PS/2プラグを使用する標準的なキーボード

PS/2マウス: PS/2プラグを使用するPCマウス

パラレルポート: SPP/ECP/EPPプリンターと接続

COM1ポート: ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと接続

RJ-45 LANポート: 家庭用、事務所用Ethernetと接続

USBポート: USBデバイスとの接続用

スピーカー出力: 外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用

ライン入力: CDやテープなどのシグナルソースから

マイク入力: マイク用

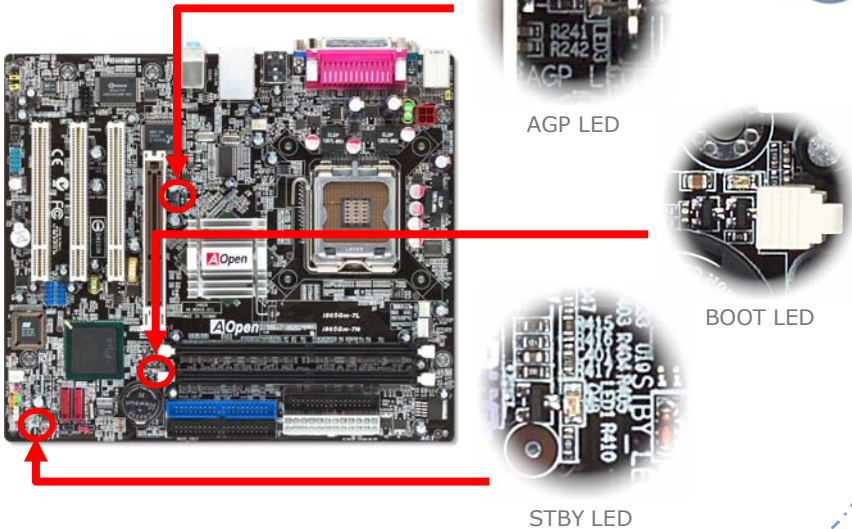
LED表示

LED表示にはAGP LED、ブートLEDとスタンバイLEDが含まれており、AOpenは使い勝手のよいシステム情報を提供することを目標に設計しました。

AGP LED はマザーボードをAGPカードの過電圧によるダメージから保護することを目的としています。AGP保護テクノロジーが導入され、当マザーボードは自動的にAGPカードの電圧を検知し、チップセットが焼きついてしまわないようにします。Intel 865G/865PE/848Pではサポートされていない3.3VでAGPカードをインストールする場合は、マザーボードのAGP LEDが過電圧によるダメージを想定して警告のために点灯します。

BOOT LED (ブートLED) はシステムがオンの時と、POST (パワーオン・セルフテスト) の時に点滅します。POSTが全て正常であることを診断しブートが終了した後で、LEDは点灯になります。POSTの間に発生したエラーを警告するときはその後も点滅しています。

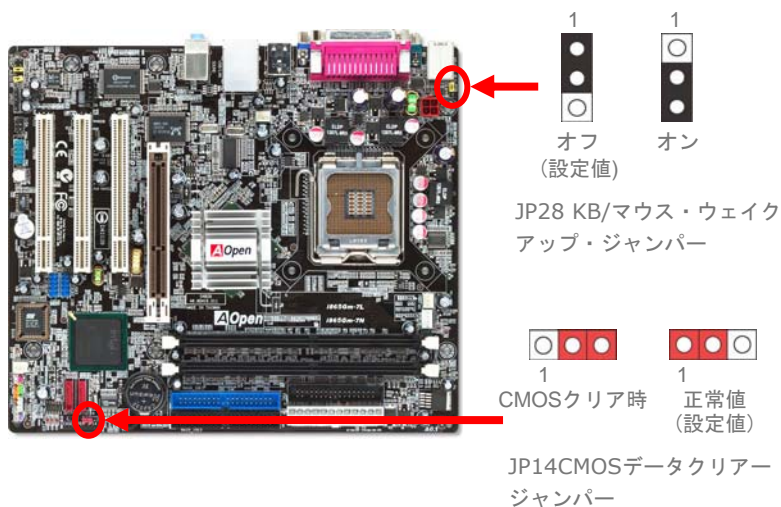
STBY LED (スタンバイLED) は電源がマザーボードに提供されているときに点灯します。システム電源の状態を確認するために便利な表示です。確認できる状態としては、電源のオン・オフ、スタンバイモードやサスペンドからRAMモードの間のRAM電源状態などがあります。



3.4 ジャンパー設定

JP28 キーボード/マウス
ウェイクアップ・ジャンパ

当マザーボードはPS2キーボード / マウス・ウェイクアップ・ジャンパー機能を提供しています。



JP14 データクリアー
ジャンパー

CMOSをクリアすると、システムをデフォルト設定値に戻せます。
以下の方法でCMOSをクリアします。

1. システムをオフにし、ACコードを抜きます。
2. コネクタPWR3からATX電源ケーブルを外します。
3. JP14の位置を確認し、2-3番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14を通常動作時の1-2ピン接続に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタPWR3に挿します。

4章 特別な機能とユーティリティー

他の便利な機能

研究開発チームの優れた設計能力により、AOpenは下記のような弊社製品に付属する多様で強力、そして手ごろな機能に自信をしております。そうした機能についてさらに学ばれるよう、私たちのテクニカルウェブサイトを訪問なさってください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



5章 BIOSを設定する

紹介

システムのパラメーターはBIOS設定メニューに入って調整できます。このメニューではシステムパラメーターを設定したり、128バイトのCMOSエリア（通常はRTCチップかメインチップセットの中）に構成を保存できます。

マザーボードのFlash ROMがインストールされているPhoenix-Award BIOS™は業界標準BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブ、シリアル、パラレルポートなどの標準的なデバイスのための重要な低層レベルでのサポートを提供しています。

AOpenの研究開発エンジニアリングチームは当マザーボードのほとんどのBIOS設定を最適化しました。しかし、BIOSのデフォルト設定のあるものはチップセットで制御されている部分を微調整できませんでした。そのため、この章では幾つかの設定を調整する手助けをすることを意図しています。

BIOS設定メニューに入るため、画面にPOST（パワーオン・セルフテスト）が表示されるとキーを押してください。



メモ： BIOSコードはマザーボード上で最も頻繁に変更される部分なので、このマニュアルに含まれるBIOS情報はお手元のマザーボードに付属するBIOSバージョンとは異なる場合があります。

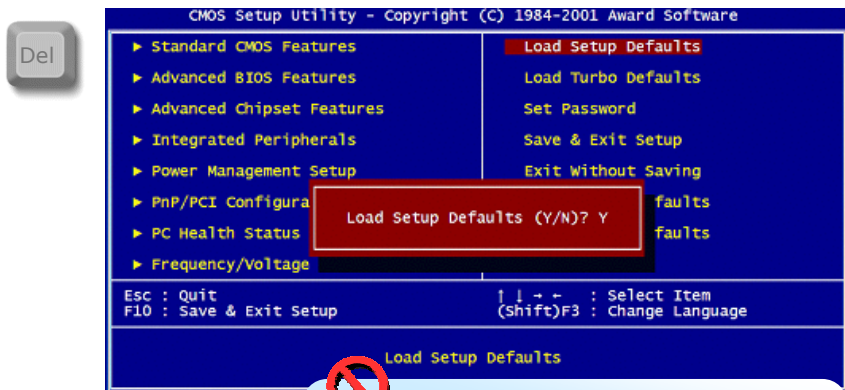
Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方

一般的に、選択したい項目は矢印キーを使って強調し、選択のためには<Enter>キーを押します。値を変更するには<Page Up>と<Page Down>キーを使います。Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムを終了するには<Esc>キーを押します。以下の表はPhoenix-Award™ BIOS設定プログラムの中でキーボードの使い方の詳細を示しています。

キー	説明
Page Up か +	設定を次の値に変更するか、値を増やす。
Page Down か -	設定を前の値に変更するか、値を減らす。
Enter	項目を選択する。
Esc	メインメニュー：変更を保存せずに終了。 サブメニュー：現在のメニューからメインメニューへ戻る。
↑	前の項目を強調する。
↓	次の項目を強調する。
←	バーをメニューの左端に移動させる。
→	バーをメニューの右端に移動させる。
F6	CMOSからセットアップデフォルト設定値をロードする。
F7	CMOSからターボ設定値をロードする。
F10	変更された設定を保存し、セットアッププログラムを終了する。

BIOS設定への入り方

ジャンパー設定を終え、ケーブルを接続してから、電源を投入しBIOS設定に入ることができます。POST（パワーオン・セルフテスト）の間にキーを押し、推奨最適パフォーマンスのために"Load Setup Defaults"を選択してください。



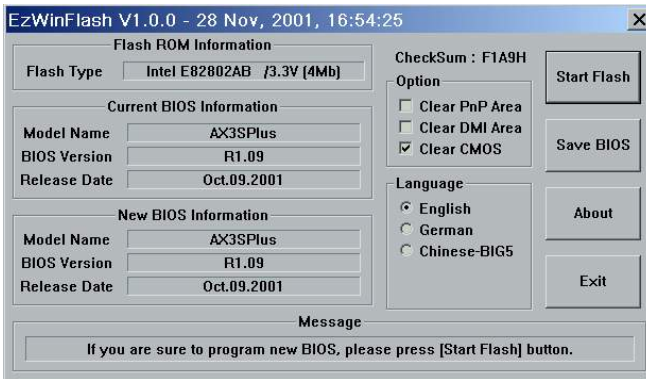
警告：ご自分のシステムコンポーネント (CPU, SDRAM, HDDなど) がターボ設定に十分であることが確かでない限り、“Load Turbo Defaults”を使用しないでください。

Windows環境でのBIOSアップグレード



AOpenの優れた研究開発能力により、全く新しいBIOSフラッシュウィザード-EzWinFlash-をお届けします。ユーザーの便宜を視野に入れ、EzWinFlashはBIOSバイナリコードとフラッシュモジュールの両方を統合しました。そのためユーザーがすることはウェブからダウンロードしたユーティリティををクリックするだけです。後は自動的にフラッシュのプロセスを完了するのをお手伝いします。EzWinFlashはマザーボードを検知し、BIOSのバージョンを確認し、システムを起りえる失敗から守ってくれます。さらに、EzWinFlashは皆さんがお使いのどのWindows環境でも機能できるよう考慮されていますので、Windows 95/98、98SE/ME、NT4.0/2000、あるいはWindows XPをお使いでもかまいません。

同時に、一層ユーザーが扱いやすい動作環境を提供するため、AOpenのEzWinFlashはBIOS設定の変更をより容易にできるように多言語機能を持つよう設計されています。



注意：システムをアップデートするときにはBIOSフラッシュの失敗というリスクがあります。もしマザーボードが安定して機能しているのであれば、最新のBIOS更新版で修正しなければならないようなバグはありません。その場合はBIOSのアップグレードをされないようお勧めします。アップグレードを計画されているのであれば、起こりうる失敗を回避するために、手元のマザーボードの正確なBIOS更新版を保持していることをお勧めします。

メモ：このBIOSの写真にあるモデル名は参照のためだけのものです。お手持ちのマザーボードと同一のモデルではないかもしれません。



以下のステップに従ってEzWinFlashでBIOSアップグレードの手順を完了できます。アップグレードを開始する前に、全てのアプリケーションを閉じておかれるよう強くお勧めします。

最新版のBIOSパッケージのZIPファイルをAOpen公式ウェブサイトからダウンロードしてください。（例：<http://english.aopen.com.tw>）

ダウンロードしたBIOSパッケージ(例: WSGMAXII102.ZIP)をWindows環境の中で、WinZip(<http://www.winzip.com>)を使って解凍してください。

解凍されたファイルをフォルダーに保存してください。例：WSGMAXII102.EXE、WSGMAXII102.BIN

WSGMAXII102.EXEをダブルクリックします。するとEzWinFlashはマザーボードのモデル名とBIOSバージョンを検知します。BIOSが違っていれば、フラッシュのステップを続行することはできません。

メインメニューで言語を選択し、次にBIOSアップグレードの手順を開始するために[Start Flash]をクリックします。

EzWinFlashは全てのプロセスを自動的に完了します。ダイアログボックスが表示され、Windowsを再起動するよう促します。Windowsを再起動するために[YES]をクリックしてください。

BIOS設定画面に入るため、POSTの時点でキーを押します。“Load Setup Defaults”を選択し、次に“Save & Exit Setup”を選択すれば終了です。

フラッシュの過程で電源を切ったり、他のアプリケーションを実行したりしないよう強くお勧めします。



警告：新しいBIOSアップグレードはフラッシュしてしまうと元のBIOS設定を恒久的に置き換えてしまいます。システムが通常通りに使用する前にBIOS設定を再構成する必要があります。

6章 ドライバーをインストールする



ドライバーやユーティリティのインストールはインストールウィザードやステップに従って繰り返し行う作業だとお考えかもしれませんが。それでは、EzInstallがどれほど“簡単に”それをやってのけるかに驚かれるかもしれません。ウィザードやステップはなく、皆さんにはただ一回クリックして頂くだけです。クリックしたら終わりです。EzInstallはインストールシーンを簡単にし、誰でも間違えずにできるようにしてくれます！

CDを入れると、AOpenの“ようこそ”ページと支社情報が出てきます。

まず、必要なドライバーのために左側のインストールドライバーのアイコンをクリックしてください。

次に、お好みのユーティリティのために右側のインストールユーティリティのアイコンをクリックしてください。

実質的にはこれだけです。しかしCDの内容をブラウズしたり、もっと情報を入手するためにReadmeを見たり、CDインストールシーンを終了したりできます。

The screenshot shows the AOpen EzInstall Welcome screen. On the left, there are several circular icons representing different installation options: a CD, a folder, a globe, a document, and a CD case. On the right, there is a 'Welcome' message and contact information for AOpen Inc., AOpen America Inc., AOpen Computer GmbH, AOpen Japan Inc., AOpen Computer B.V., and AOpen International Co., Ltd. The screen also features a 'Contact us' link and an 'Install User manual' icon.

Callouts from the left side:

- ドライバー (Driver)
- ユーティリティ (Utility)
- CDの内容をブラウズ (Browse CD content)
- Readme
- Exit CD

Callout from the top right:

- クリックしてオンラインマニュアルをインストール (Click to install online manual)

Callout from the bottom right:

- AOpenの支社情報 (AOpen branch information)

6.1 ドライバーをインストールする

Install Driver（ドライバーをインストールする）というページから分かるように、EzInstallはマザーボードのために必要なものを拾い上げてくれました。皆さんがすることはただ“GO”をクリックするだけで、その後にはステップはありません。リストに挙がっているドライバーの中で、灰色でチェックされているのは必要なドライバーで、皆さんが除外することはできません。赤色のチェックは今回必要でないなら無効にできるものです。



アイコンを押すと“Install Driver”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



一度“GO”をクリックするとEzInstallは自動的にインストール手順を実行してから、再起動ダイアログを出します。（ドライバーやユーティリティの中には再起動の部分をスキップするものもあります。）

6.2 ユーティリティをインストールする

Installing Utilities（ユーティリティをインストールする）はドライバーのインストールとほとんど同じです。AOpenはシステムを管理するために、たくさんの使いやすく強力なユーティリティを提供しています。数多くの素晴らしいユーティリティが列挙されていることがお分かりになるでしょう。皆さんにはただ“GO”をクリックして頂くだけで、あとは複雑なステップはなしにシステムにユーティリティがあつという間にインストールされます。



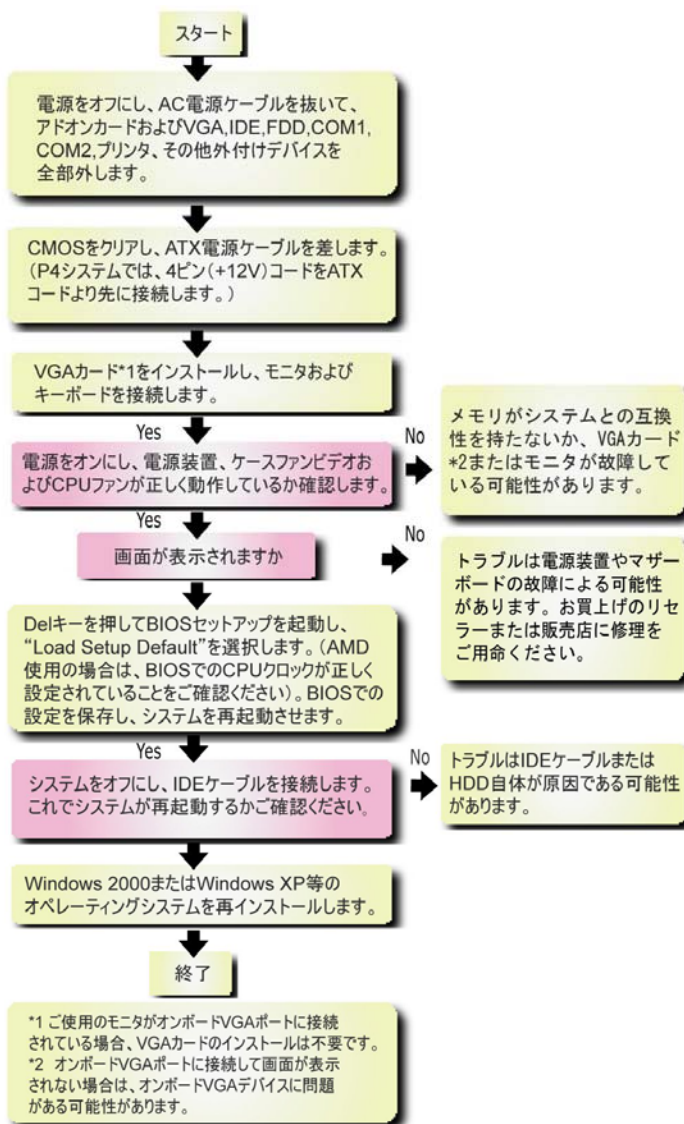
アイコンを押すと選択できるよう“Install Utilities”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



7章 トラブルシューティング



TroubleShooting



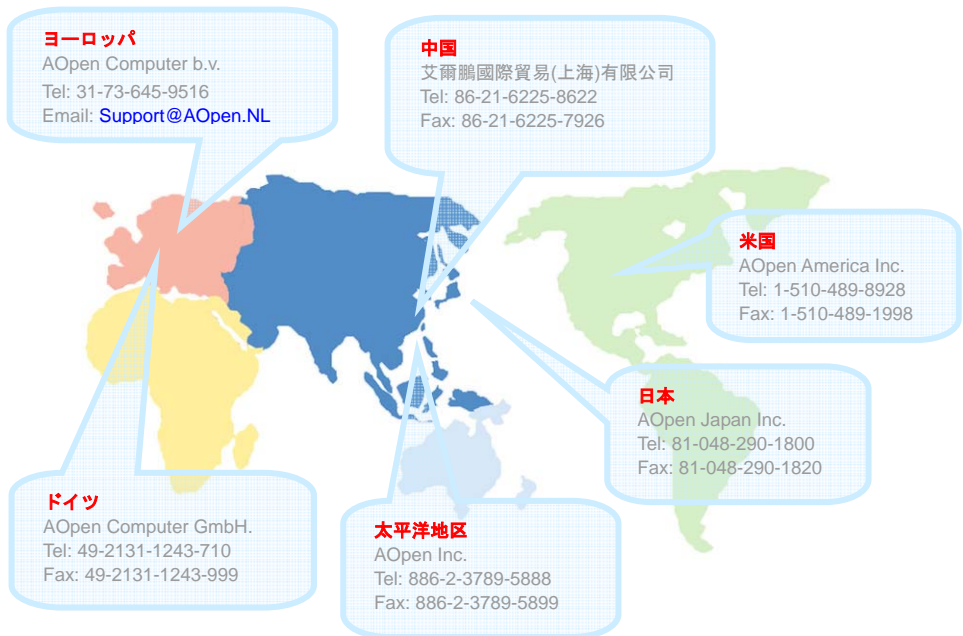
8章 テクニカルサポート

ユーザーの皆様へ、

AOpen製品をお買上げいただき、ありがとうございます。製品を <http://www.aopen.com> で登録されると、Club AOpenのゴールドメンバーとなり、以後の質の高いサービスをご利用いただけます。ユーザーの皆様には質の高いサービスを継続的に提供するため以下の手順をご参考になり、お買上げ地域にある当社の支社からのサポートをお受けください。ユーザー皆様のご協力により、効率的かつ最良のサービスが皆様に引き続きご利用いただけます。

ご協力に感謝いたします。

AOpenテクニカルサポートチーム



ヨーロッパ Eメール : Support@AOpen.NL

太平洋地区 : <http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>

中国 : <http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>

ドイツ : <http://www.aopencom.de/tech/default.htm>

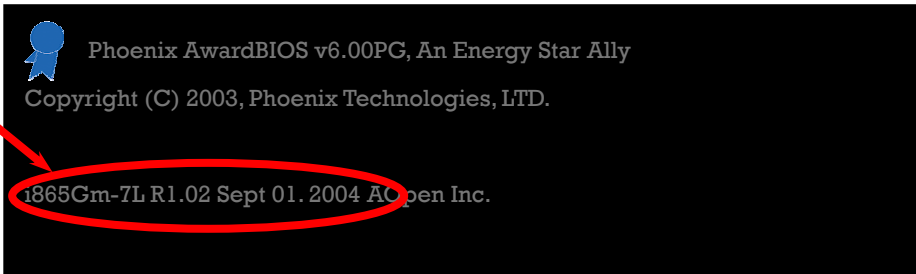
米国 : <http://usa.aopen.com.tw/tech/default.htm>

日本 : <http://aopen.jp/tech/index.html>

型式名およびBIOSバージョン

型式名およびBIOSバージョンは最初の起動画面(POST画面)の左上に表示されます。

以下が一例です。



i865Gm-7Lはマザーボードの型式名で、R1.02はBIOSバージョンです。

お買上げのマザーボードの登録

AOpen製品をお買上げいただき、ありがとうございます。お買上げのマザーボードは<http://club.aopen.com.tw/productreg/> からご登録いただけますと、Club AOpenの会員となり、AOpenからの質の高いサービスが優先的にご利用いただけます。また、スロットマシンゲームに参加してAOpenからの景品獲得もできます。登録の際には下記の情報をご用意ください。 形式名、 パーツ番号(P/N)、 シリアル番号(S/N) およびお買上げ日。 パーツ番号およびシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。バーコードはパッケージ外側またはPCBのコンポーネント側に付いています。以下が一例です。



P/N: 91.88110.201はパーツNo, S/N: 91949378KN73はシリアルNo。

Phoenix-Award BIOSエラーメッセージ

エラー音	メッセージ
1回短く (・)	システムのブートが正常
2回短く (・・)	BIOS設定エラー
1回長く - 1回短く (- ・)	メモリエラー
1回長く - 2回短く (- ・・)	AGPエラー (VGAカードかモニターの接続エラー)
1回長く - 3回短く (- ・・・)	VGAカードエラー (オンボードVGA利用時はメモリエラー含む)
長いエラーが継続 (- - - -)	メモリエラー (メモリが正しく装着されていない、正しく認識していない)



Technical Support

オンラインマニュアル：マニュアルをダウンロードするには、まずログインに必要な言語を指定します。“Type”のディレクトリから“Manuals”を選んで、マニュアルデータベースにアクセスします。マニュアルおよびイメージインストールガイドはAOpenボーナスバックCDにも収録されています。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

テストレポート：PC組立てには、互換性テストレポートからboard/card/deviceの部分をご覧になることをお勧めします。これで互換性に関するトラブルを解決できるかもしれません。

<http://aopen.jp/tech/report/index.html>

FAQ：ユーザーがよく直面する問題やFAQ（よく尋ねられる質問）が列挙されています。ログインに必要な言語を指定してから問題の解決方法を見てください。

<http://aopen.jp/tech/faq/index.html>

ソフトウェアのダウンロード：ログインして必要な言語を指定した後、“Type”のディレクトリからアップデートされた最新のBIOSまたはユーティリティ、ドライバをダウンロードしてみます。大半の場合、最近のバージョンのドライバやBIOSにより、バグや互換性の問題が解決されます。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

eForum：AOpen eForumは当社製品に関して他のユーザーと討論する場所で、ユーザーの問題が以前に取り上げられたか以後答えを得られる可能性があります。ログインしてから“Multi-language”で必要な言語を指定します。

<http://club.aopen.com.tw/forum/>

当社へのご連絡：ご連絡に先立ち、システム設定の詳細情報およびエラー状況をご確認ください。パーツ番号、シリアル番号、BIOSバージョンも大変参考になります。

販売店、リセラーへのご連絡：当社は製品をリセラーおよびシステム設計会社を通して販売しております。ユーザーのシステム設定に関して熟知しており、お持ちの問題の解決方法または重要な参考情報が提供される可能性があります。